

## 避難訓練 評価報告書

作成日：2015年2月27日  
作成者：学校法人木の実学園  
木の実幼稚園  
理事長 中矢謙一郎

<今後について>

### <総評>

今年で3度目となるこの度の避難訓練も、避難先である垣生中学校はもとより、垣生地区の自主防災会連合会や交通安全協議会、垣生駐在所より御理解と御協力を賜れたおかげで執り行えたものであり、地域の方々へまず感謝申し上げます。

今年度も垣生中学校の先生方と中学2年生の皆さんのご協力により、中学2年生が年少児（3歳児、92名）と年中児（4歳児の一部）を校舎4階の多目的スペースまで避難させるという合同避難訓練の形を取れ、子どもたちにとって「避難」とはどういう行動なのかを体感する大変貴重な時間となりました。

避難訓練は、上述の各会の方々が避難ルートの要所に立って頂けたおかげで、今年も事故なく全参加園児が無事に垣生中学校へ到着致しました。また、避難にかかる時間は、昨年比で数分の遅れがあったものの、平時の平均的な避難時間がどの程度かを把握するのに、重要なデータを収集できたことが収穫でした。

### <記録①：避難開始から垣生中学校到達までに要した時間>

一昨年度： 第1グループの先頭到着 ⇒ 41分（参考1）  
第2グループの先頭到着 ⇒ 27分（参考2）

昨年度： 先頭の到着 ⇒ 21分  
最後尾の到着 ⇒ 26分

今年度： 先頭の到着 ⇒ 24分  
最後尾の到着 ⇒ 28分

結果： 昨年度（平成25年度）に隊列の組み方等を改善しました。昨年度と今年度の平均時間（先頭の避難開始から最後尾の到着まで）は、27分となりました。

（以上）

- ・避難時の隊列の組み方は、昨年度の改善の通り「年長（5歳児）と年少（3歳児）がペアになることが有効であり、この隊列を定型とします。
- ・昨年度の反省に出た「避難途中で隊列が間延びしたり、どこかの組が遅れて孤立したりするような場合に、先頭にペースを落とすように伝える方法を事前に考えておく。」ことについては、連絡係として教員が1名動けたことで隊列の間延びが緩和され、一体的に動けた。携帯電話を利用できないことを考えると、原始的なこの方法が有効であると考えます。
- ・中学生に手を握って頂いているおかげで、幼子がなんとか自分の足で高いところへ上がろうとすることができました。この行為そのものが、まさに「避難行動」の体感であり、幼子にとっては言葉の説明よりも遥かに記憶に残る体験と感じました。中学校にご迷惑のかからない年度においては、是非継続をお願いできると幸いです。
- ・南海トラフ大地震の際に発生する津波により、瀬戸内の松山地方で水位の上昇が始まるまでに2時間強の時間があるとされています。東日本大震災の際に大変短い時間で津波が到達した地区地域であっても、命を落とした人がゼロの場所もありました。訓練の結果に満足せず、いざという時の行動を明確にしておき、また、子どもたちが少年・青年・大人へと成長していく中で、どこで生活していようとも「避難」と「その方法」がどのようなものであるかを体で記憶できているよう、訓練を継続していきたいと考えております。

（参考1）各学年がクラス毎に隊列を作って移動したグループ

（参考2）年長児（5歳児）と年少児（3歳児）がペアになって移動したグループ